

千葉県八千代市

## 米本城跡 b 地点

－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2021

加茂 文雄  
八千代市教育委員会



02P 13

中国産漳州窯系磁器・染付碗



02P 14

中国産景德鎮窯系磁器・染付碗



## 凡 例

- 1 本書は、八千代市米本字内宿南1732-1の一部他に所在する米本城跡b地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、確認調査を国庫・県費補助事業として、本調査は、民間開発等埋蔵文化財調査事業として、事業者より調査協力金を納付いただき、八千代市教育委員会の委託事業として実施した。
- 3 発掘調査・本整理作業は以下のとおりである。  
〔調査〕 確認調査 期間 平成30年7月19日～7月27日 面積 120m<sup>2</sup>/1,274.22m<sup>2</sup> 担当 宮澤 久史  
本調査 期間 令和元年12月3日～令和2年2月10日 面積500m<sup>2</sup> 担当 森 竜哉  
調査補助員 板橋三郎・伊藤衣莉加・鈴木一代・萩原雄一・室中勝典・山本みづ江・藤田千博  
山田俊二
- 〔整理〕 図版作成 期間 令和2年7月8日～9月10日 担当 森 竜哉  
整理補助員 伊藤衣莉加・柴田清加
- 4 本書の編集・執筆は、森がおこなった。
- 5 現場の遺構写真及び報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。
- 6 本書の作成・刊行については、整理補助員と森が協力して行い、森が統括した。
- 7 出土遺物、実測図等の資料は、八千代市教育委員会が保管している。
- 8 本書の遺構番号は、発掘調査時の番号を使用している。
- 9 遺構・遺物の縮尺は、下記のとおり統一しているが、位置図・全体図等は別記した。  
〔遺構〕 ピット (01P・04P・05P・06AP・06BP・08P) 1/30. (03P・02P) 1/80  
〔遺物〕 全て1/3
- 10 遺物実測図の中軸線サイドの空きは、復元実測を示す。
- 11 遺構遺物のスクリーントーンは、その都度説明を加えた。
- 12 本書使用の地形図等は下記のとおりである。  
第1図 國土地理院発行 1/50,000佐倉に加筆  
第2図 「八千代市中世館城址調査報告」1978  
第3図 八千代市発行 1/2,500八千代都市計画基本図
- 13 発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導、ご協力いただきました。記して感謝いたします。(敬称略) 加茂文雄 大東建託(株) 日暮邦夫 道上文 千葉県教育庁文化財課

## 本文目次

|                |    |
|----------------|----|
| 第1章 序説         |    |
| 第1節 調査に至る経緯    | 1  |
| 第3節 周辺の城館跡について | 1  |
| 第2章 検出された遺構と遺物 |    |
| 第1節 土壙・溝       | 6  |
| 第3章 まとめ        |    |
| 中世以降           | 17 |

## 挿図目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| 第1図 周辺の城館跡             | 2  |
| 第2図 米本城跡測量図            | 3  |
| 第3図 調査地点               | 4  |
| 第4図 遺構配置図              | 5  |
| 第5図 土壙測量図              | 7  |
| 第6図 土壙土層断面図            | 8  |
| 第7図 01M・土壙出土遺物         | 9  |
| 第8図 01P.04P.08P遺構実測図   | 11 |
| 第9図 01P出土遺物            | 11 |
| 第10図 03P遺構実測図・出土遺物     | 12 |
| 第11図 05P.06P遺構実測図・出土遺物 | 13 |
| 第12図 02P遺構実測図・出土遺物(1)  | 14 |
| 第13図 02P出土遺物(2)        | 15 |
| 第14図 確認調査出土遺物          | 16 |

## 図版目次

巻頭図版中国産磁器・染付碗2点

図版1 遺構 [pit・土壙]

図版2 遺構 [土壙]・遺物[土壙・01M]

図版3 遺物 [01P.03P.06P.確認調査]

図版4 遺物 [02P]

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

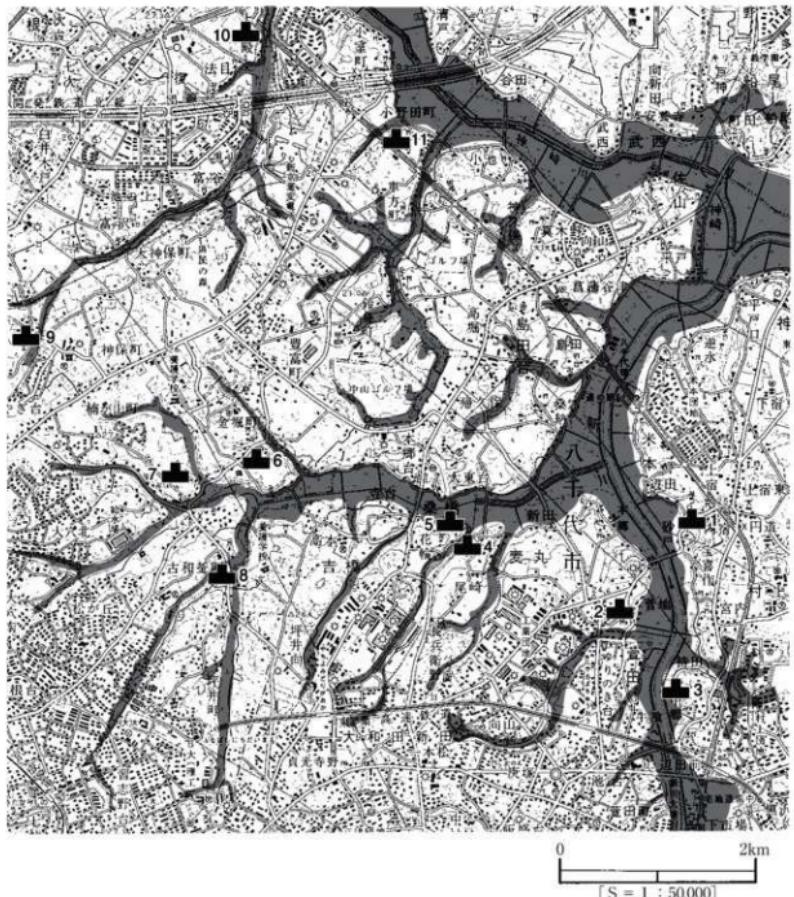
平成30年4月、加茂 文雄 氏（以下事業者という）から、共同住宅建設を予定する旨で「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の文書が八千代市教育委員会に提出された。確認地は、市道跡No117米本城跡の範囲内であり、予定地内に土塁が確認されることから、文化財保護法第93条の届出が必要な旨回答した。届出を受けて、協議の結果、確認調査を実施することとなり、農地の一時転用許可後の平成30年7月に確認調査を実施した。その結果、中近世土塁1条・同土坑1基が検出され、その後の協議により記録保存の措置をとることとなり、委託契約書の締結等諸準備が整った令和元年12月本調査に着手した。

## 第2節 調査の方法と経過

調査期間は令和元年12月3日～令和2年2月10日で、12月3日～10日調査区整備、12月11日～16日土塁測量図作成、12月24日～令和2年1月10日重機による表土剥ぎ・土塁断ち割り、1月14日～22日土塁土層断面図作成・01P・02P調査を行う。1月24日～27日土塁下及び周辺部の重機による表土剥ぎ後、1月29日～2月10日にかけて01M～03M、03P～08Pの調査・実測を行いつつ、最終的に全景写真撮影を行い、機材撤収を含め調査を完了とした。

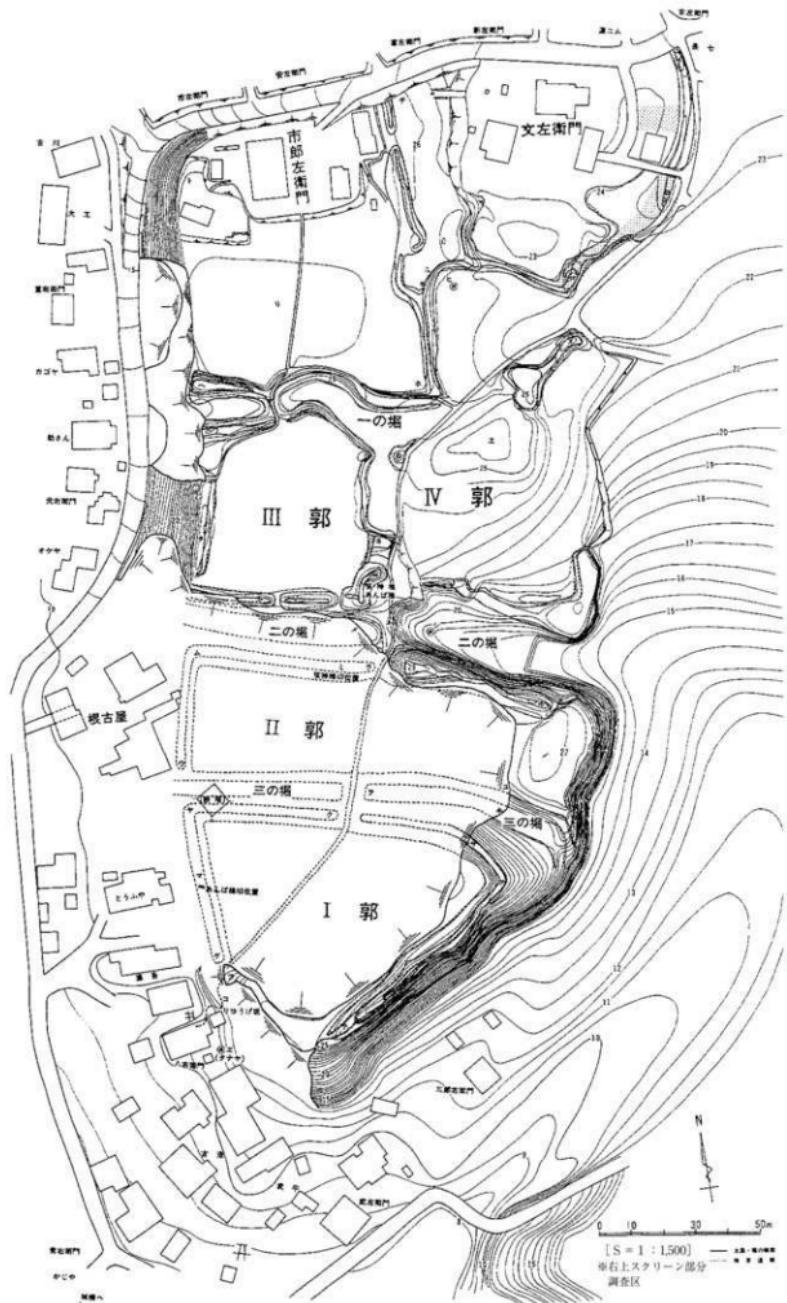
## 第3節 周辺の城館跡について（第1図）

今回調査地点を含む新川流域では、東岸の1米本城跡、3正覚院館跡、西岸の2飯綱砦跡遺跡が占地する。米本城跡は、四郭からなる直線連郭式の城で、土取りで主郭部分は失われているが、南北300m×東西150mの規模をもつ。根古屋・りゅうげ等の地名や井戸・腰廊・虎口等の施設、防御性の高い主郭・II・III郭の構成から、戦国時代に整備・機能とされる。3正覚院館跡は二郭からなる防御部分とその東側に一段低い館想定部分から構成される。南北120～160m×東西120mの規模で、台形上の平面をもつ。これまでの調査成果から、14世紀から16世紀に機能したと想定される。また南に隣接する浅間内遺跡では、2条の溝に区画された範囲内に地下式坑・火葬施設・土坑等や当該時期の茶白・陶器・内耳土鍋と言った生活品が出土している。桑納川水系では、4尾崎館跡、5吉橋城跡やその西側奥部北岸に6金堀城跡、7楠ヶ山館跡、南岸の駒込川沿いに8坪井城跡が占地する。吉橋城跡は、I郭・II郭が土塁・堀により遺存するが、I郭・II郭の西及び南に広がる台地上等を含む範囲が城域と想定される。近接する妙見前遺跡では、幅10m・深さ4mの堀が検出され、中世中国産陶器や中國産磁器、錢貨等が出土した。また同台地の渋内遺跡では、15世紀後半の地下式坑（地下倉庫）が11基発見されており、生活空間の一部と想定できる。尾崎館跡は、土塁・堀を東及び南に配置し、長方形状の郭を持つ。吉橋城跡の堀底道に隣接しており、明らかに根古屋として位置づけられる。吉橋城跡西側の金堀城跡は、方形に土塁が巡る。詳細は不明である。楠ヶ山館跡は堀・縫堀・土塁・櫓台等により構成、主郭を取り囲む形で3郭が遺存する。戦国時代に比定される。金堀城跡、楠ヶ山館跡、坪井城跡等も吉橋城跡との位置関係から、地域有力者層による水田經營や戦時拠点の場といえよう。神崎川流域では、南岸の台地先端部に11小野田城跡、支谷奥に9八木ヶ谷城跡、10長殿城跡が占地する。小野田城跡は、明確な二郭と距離を隔てた南側に土塁・堀等の防御施設を配す。東西150m×南北160mの規模で、方形に近い平面形である。八木ヶ谷城跡は、開発によって消失した部分が多いが、土塁・縫堀等が確認された。位置的には谷奥にあたり、7の楠ヶ山館跡に近い占地となっている。土地利用上は北側谷津部分を効果的に活用したといえよう。西側隣接地の八木ヶ谷王子遺跡からは、中世墓跡と板碑が検出されており、同台地上の土地利用を考える点で興味深い。

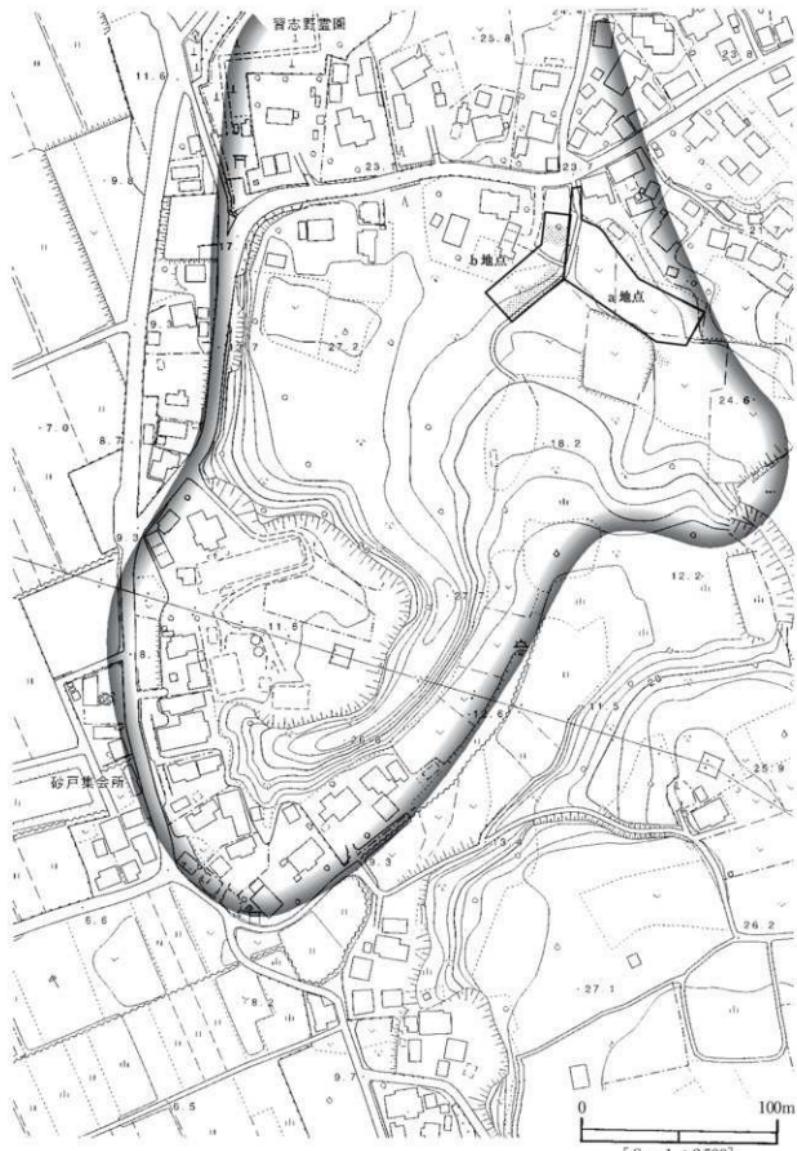


第1図 周辺の城館跡

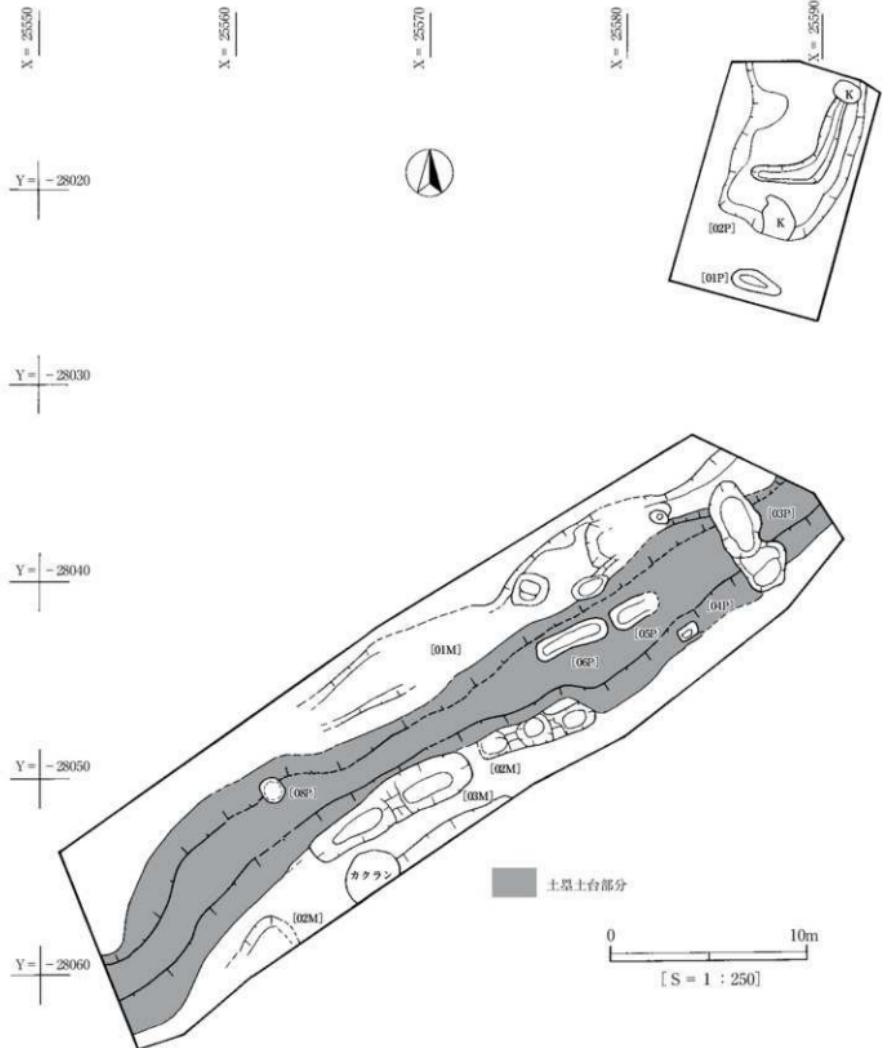
1. 米本城跡
2. 飯綱砦跡道路
3. 正覺院館跡
4. 尾崎館跡
5. 吉橋館跡
6. 金堀城跡
7. 桶ヶ山館跡
8. 塚井城跡
9. 八木ヶ谷城跡
10. 長殿城跡
11. 小野田城跡



第2図 米本城跡測量図



第3図 調査地点



第4図 遺構配置図

## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 土塁・溝

今回の調査では土塁1条、溝3条を検出した。以下に報告する。

#### 土塁（第2.3.5～7図・図版1.2）

本跡は、調査範囲は第2図のスクリーントーン部分にあたるが、文左衛門家を取り囲むように配置されている。全体としては、南北に緩くカーブを描くように95mで、西に屈曲し30m、南北に分岐し、北方向に60mで文左衛門家の裏手北側に至る。南方向は45mでIV郭北西角へ至る。

本調査区の土塁について言及すると、全長44.0m・幅7.2m、標高は北側で頂頭部24.5m、屈曲部分の南側で25.0m、南側に高さを増している。低い部分との比高差は北側で1.2m、南側で1.7mである。

各トレーニングについて説明を加える。各トレーニングとも基盤となる土台層はハードローム層で、屋敷地を含む範囲で大規模な切土による整形工事を行なっている。1Tでは、A'側に積み上げ層が痕跡としてあり、その東側に堀の落ち込みが想定される。2Tでは、積み上げ層の痕跡が僅かに残る。B'側は0.2Mによる後世の切土で土塁部分は消失している。3Tは、ハードロームの土塁土台の遺存が他のトレーニングより残っている状況で、ハードローム地山盛り上がりが観察される。本来はこの東側に積み上げ土が遺存したが、0.2Mによる切土で失われた。1T・2Tとも、土塁積み上げ土の西側に、土塁土台である地山盛り上がりがあったと想定している。

土塁は城廬絶後に、意図的ないし土地利用上の目的から、削平と堀の埋め戻しが進められ、現在見る状況に至った。本来の土塁・堀の比高差は現状で1.7mであるが、防御上や堀の埋め戻しを考慮すれば、3m以上とも想定されよう。

遺物は、土塁封土中・削平時の混入であるが、15世紀後半～17世紀初頭の時間幅が見られる。

#### 01M（第4図）

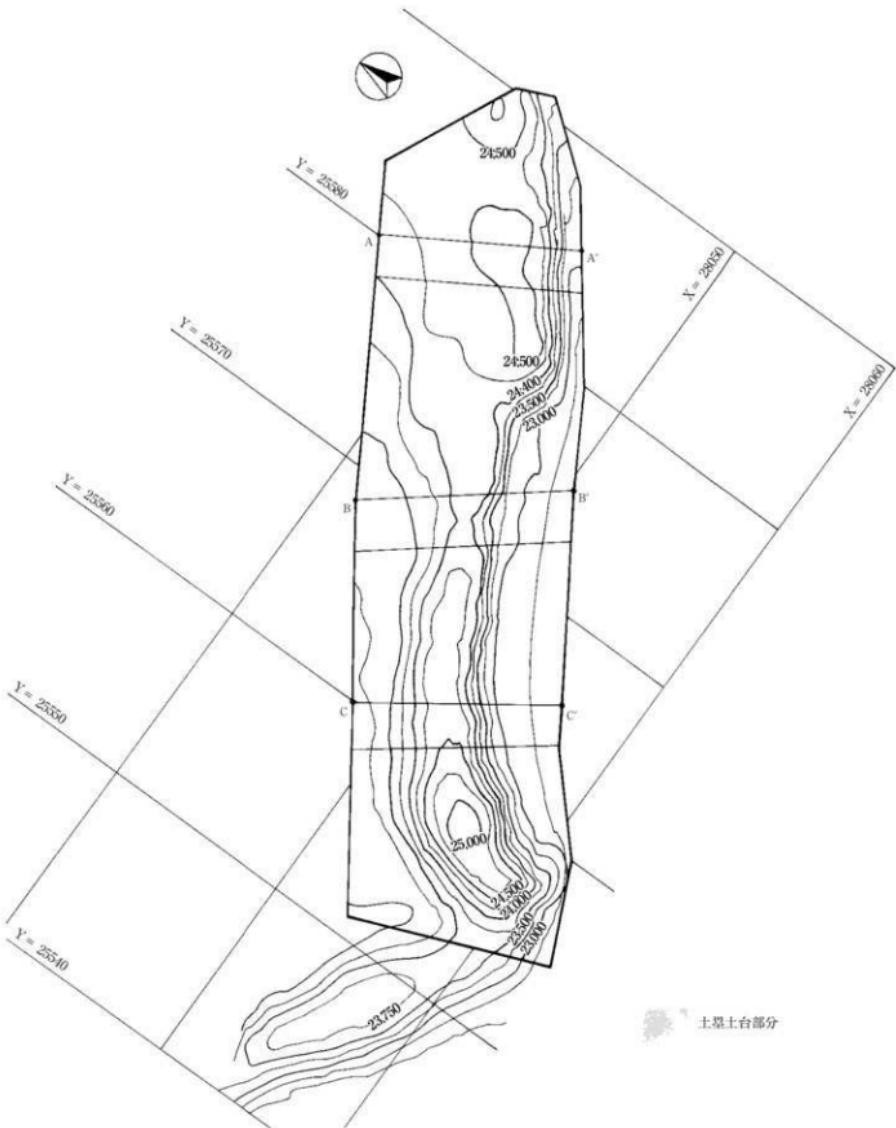
位置：土塁土台部分に平行するが、北側で重複。確認面：ハードローム上面 方位：N-60°-E 全長26.2m×幅2.2～3.5m×深さ0.1～0.7mの逆台形。壁：北側では明確な掘り込みを持つが、南側で浅くなり消失する。底面：後世のカクランによる凹凸が著しい。覆土：褐色土系の人为堆積。遺物：混入遺物と想定される中世擂鉢、小刀、硯片、砥石片が出土した。備考：土塁土台部分を切る。01M上層において、硬化面が検出された。土塁→01M→硬化面（道路）の時期差がみられる。

#### 02M（第4図）

位置：土塁に重複する。確認面：ハードローム上面 方位：N-68°-E 全長23.1mの範囲で2口～3口の不連続なラインで遺存。北側は3口で全長6.3m、1口の掘り込み1.9×1.3m×深さ0.4mの長方形プランが連結する。中央は2口で全長9.3m、1口の掘り込み4.3×2.2m×深さ0.5mの梢円形プランが連結する。南側は1か所の掘り込みを確認した。壁：全体に明確な掘り込みを持つ。底面：平坦に整えられている。覆土：暗褐色土で1～2mmの大ローム粒を含む。締まりなくサラサラ。遺物：図示していないが、江戸時代後期の比較的新しい陶器片が出土した。備考：土塁を切る。覆土が締まっておらず、イモ穴等農作物貯蔵用施設と想定される。

#### 03M（第4図）

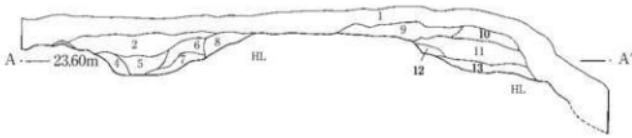
位置：南側調査区中央の東隅に部分的に遺存。また、土塁トレーニング1Tセクション東側に一部反映される。確認面：ハードローム上面。遺物：出土せず。備考：本遺構は土塁に伴う堀で、農道下に遺存すると想定する。



第5図 土壠測量図

0 10m  
[S = 1 : 250]

[1T]



[2T]



[3T]



0 2m  
[S = 1 : 80]

#### 土壌 1T 土層説明

- 1: 表 土 黒色土、腐食土。
- 2: 剛弱色土 混合土、ローム複合層、粒子細かい。
- 3: 黑色土 ローム土、やや締まり欠く。
- 4: 黑色土 ローム土上に黒色土混入。
- 5: 黑色土 4層類似。黒色土少ない。
- 6: 黑色土 剛弱色土にロームブロック混入。ややはさそ。
- 7: 黑弱色土 剛弱色土に黒色土。ややはさ。
- 8: 黑弱色土 ローム土に剛弱色土混入。締まる。
- 9: 剛弱色土 ローム純土。締まる。
- 10: 黑弱色土 ロームと剛弱色土混入。締まる。
- 11: 剛弱色土 黒色土混入。
- 12: 剛弱色土 ローム・黑色土混入。
- 13: 黑弱色土 ローム土に黒色土混入。

※ 2~8 0M覆土 9~13 土壌積み上げ土

#### 土壌 3T 土層説明

- 1: 表 土 黒色土、腐食土。
- 2: 黑色土 ローム、ロームブロック混合層。ややはさそ。
- 3: 黑弱色土 黒色土、ローム混合層。ややはさそ。
- 4: 剛弱色土 剛弱色土+剛弱色土。
- 5: 剛弱色土 黑色土に灰化土下ごし少量混入。5mm大ロームブロック混入。
- 6: 黑色土 黑色土上、ロームブロック、黒色土混合層。

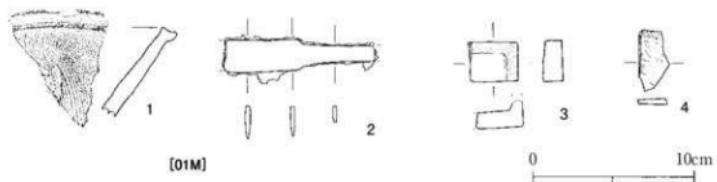
※ 1~3 土壌積み上げ土 4~6 土壌覆土

#### 土壌 2T 土層説明

- 1: 表 土 黒色土、腐食土。
- 2: 黑弱色土 ローム粉及びロームブロック少量含む。
- 3: 剛弱色土 ローム、黒色土粒混合層。
- 4: 剛弱色土 ローム、黒色土粒混合層。ややはさ。
- 5: 黑弱色土 ローム、ロームブロック混合層。締まっている。
- 6: 黑弱色土 ローム少量含む。締まっている。
- 7: 剛弱色土 黒色土、ローム、ロームブロック混合層。ややはさ。
- 8: 剛弱色土 7層類似。ロームややはさ。

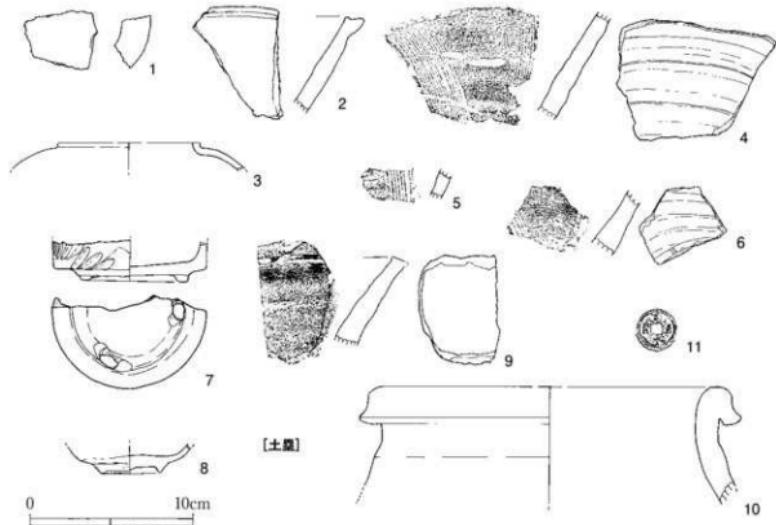
※ 1~3 0M覆土 4~6~8 土壌積み上げ土 7 土壌覆土

第6図 土壌土層断面図



01M 遺物観察表

| 器種    | 器形           | 部位            | 計測値 (cm)   |            |                | 焼成          | 色調    | 粘土             | 調整・文様等                    |
|-------|--------------|---------------|------------|------------|----------------|-------------|-------|----------------|---------------------------|
|       |              |               | 器高         | 口径         | 底径             |             |       |                |                           |
| 1 土器  | 縦跡           | 口縁部分          | -          | -          | -              | 良           | 内外淡褐色 | 雲母・長石・石英<br>砂粒 | 内外ナデ。16世紀代。               |
| 2 歩器  | 小刀           | 刃部・茎部<br>両端欠損 | 遺存長<br>9.6 | 刃部長<br>2.1 | 茎部長<br>1.4-1.0 | 重さ<br>21.0g |       |                |                           |
| 3 石製品 | 規            |               | 遺存幅<br>2.3 | 幅幅<br>3.1  | 厚幅<br>6.0      | 墨池厚<br>1    | 灰白色   | 石材 砂岩質         | 下邊に2次使用の擦り痕。<br>重さ 15.1g。 |
| 4 石製品 | 砾石<br>(仕上研磨) |               | 遺存長<br>3.7 | 遺存幅<br>1.9 | -              | 重さ<br>34g   | 淡橙白色  | 石材 白岩          | 2辺角部分細削あり。                |



土器遺物観察表 (1)

| 器種             | 器形 | 部位      | 計測値 (cm)   |     |    | 焼成 | 色調         | 粘土    | 調整・文様等                            |
|----------------|----|---------|------------|-----|----|----|------------|-------|-----------------------------------|
|                |    |         | 器高         | 口径  | 底径 |    |            |       |                                   |
| 1 丸貝土器         | 火鉢 | 胴部上半部   | -          | -   | -  | 良  | 内外黒灰色      | ち密    |                                   |
| 2 土器           | 縦跡 | 口縁部分    | -          | -   | -  | 良  | 内外淡褐色      | 長石・雲母 | 縫合・瓦造荷葉鉢模様。16世紀後半。                |
| 3 瓢口・美濃<br>室鉢器 | 縦跡 | 口縁・胴部上半 | 遺存高<br>1.7 | 8.6 | -  | 良  | 内外淡褐色 (施釉) | ち密    | 17世紀代。                            |
| 4 瓢口・美濃<br>室鉢器 | 縦跡 | 胴下半部分   | -          | -   | -  | 良  | 内外赤茶色 (施釉) | 灰石・ち密 | 外面クロコ目明瞭。<br>内面4本以上の横紋沈線。15-16世紀。 |
| 5 瓢口・美濃<br>室鉢器 | 縦跡 | 胴部片     | -          | -   | -  | 良  | 内外赤茶色 (施釉) | ち密    |                                   |
| 6 瓢口・美濃<br>室鉢器 | 縦跡 |         | -          | -   | -  | 良  | 内外赤茶色 (施釉) | 長石・ち密 | 外面クロコ目明瞭。<br>内面横纹沈線。15-16世紀。      |

第7図 01M・土器出土遺物

## 第2節 ピット

ピット8基を検出した。遺構出土遺物は5遺構から出土し、遺物の年代観から戦国時代（16～17世紀初頭）と江戸時代後期（18～19世紀）に属すると考える。なお、01P.02Pを除く遺構は、全て土壙を壊して作られており、また出土遺物から、ピット全体について落城以降の所産である。

### 01P（第8.9図 図版1.3）

位置：北側調査区南。確認面：ソフトローム上面。方位：N-68°-E。規模・平面形：2.49m×0.93m×深さ0.4mの一辺が直線状の楕円形。底面：ほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やか。覆土：4層。暗褐色土系の自然堆積層だが、全体に縮まる。遺物：覆土中より瀬戸・美濃産天目茶碗片出土。所見：用途不明。

### 04P（第8図 図版1）

位置：南側調査区北。確認面：ハードローム上面。方位：N-58°-E。規模・平面形：1.0m×0.75m×深さ0.1mの楕円形。底面：やや凹凸がある。壁の立ち上がりは緩やか。覆土：1層。ローム粒を多く含む暗褐色土。遺物：なし。所見：用途不明。

### 08P（第8図 図版1）

位置：南側調査区南。確認面：ハードローム上面。方位：計測なし。規模・平面形：1.12m×1.3m×深さ2.2mの不整円形。底面：ほぼ平坦で、壁の立ち上がりは直立。ハードローム層1.1m、砂層0.1m、褐色粘土層0.6m、白色粘土層0.4mを掘り込んで底面とする。湧水はなし。覆土：土星3Tの土層断面図中4～6層が該当する。粘土粒を全体に含む自然堆積層。遺物：なし。所見：土壙を切る形で掘り込んでいる。湧水はなく、井戸ではない。新しい掘り込みに該当する情報はないため、砂・粘土採取目的に掘られた近代以前のものか。

### 03P（第10図）

位置：南側調査区北。確認面：ハードローム上面。方位：N-42°-W。規模・平面形：全長2.95mで燃焼部1.85m×1.07m×深さ0.2m、焚口部1.25m×1.04m×深さ0.25mの緩やかなくびれ部をもつヒヨウタシ形。燃焼部の壁面には白色砂質粘土が巡る。また燃焼部焚口側に凝灰岩切石を配置する。底面：ほぼ平坦。覆土：燃焼部では、天井部粘土の崩落及び炭化物残滓がみられ、焚口部では、黒色土・ロームブロック等の堆積がみられた。遺物：焚口部からは、近世ないし明治期の陶磁器片が出土している。燃焼部からは、混入遺物として15世紀～17世紀の陶器片が出土しており図示した。所見：江戸時代後期～明治時代の炭焼窯である。

### 05P（第11図 図版1）

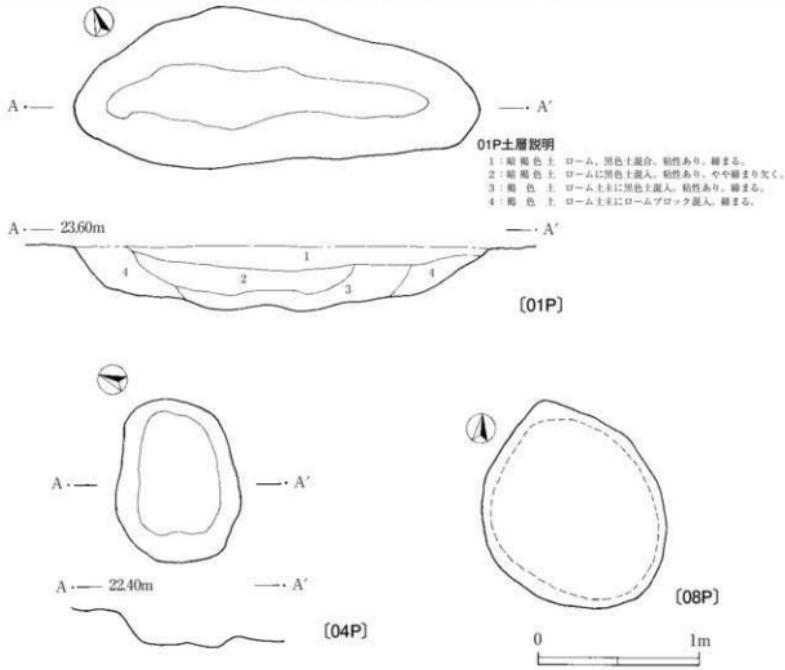
位置：南側調査区中央。確認面：ハードローム上面。方位：N-78°-E。規模・平面形：1.88m以上×1.17m×深さ0.2mの隅丸長方形。底面：平坦である。壁の立ち上がりは緩やか。覆土：1層。暗褐色土。厚さ4～5cmの白色粘土を全面に貼る。遺物：碎片のため図示できず。所見：粘土貼土坑である。土壙と重複関係にあり、土壙を切っている。土壙トレンド掘削時に半分程度を消失した。

### 06AP（第11図 図版1）

位置：南側調査区中央。確認面：土壙切土面。方位：N-78°-E。規模・平面形：4.53m×1.33m×深さ0.18mの隅丸長方形。底面：平坦である。壁の立ち上がりは緩やか。覆土：2層。暗褐色土及び灰褐色土。厚さ6cmの白色粘土を全面に貼る。遺物：常滑産・瀬戸・美濃産陶器片が出土。所見：粘土貼土坑である。土壙及び06BPと重複関係にあり、土壙を切り、06BPに切られる。覆土の2.3層は間層で、規模を縮小して上部に06BPを作り変えている。土壙→06AP→06BPで新しい。

土器遺物観察表(2)

| 番号 | 器種           | 器形   | 部位     | 計測値(cm)    |           |           | 構成 | 色調                         | 胎土           | 調整・文様等                           |
|----|--------------|------|--------|------------|-----------|-----------|----|----------------------------|--------------|----------------------------------|
|    |              |      |        | 器高         | 口径        | 底径        |    |                            |              |                                  |
| 7  | 瓶口・美濃<br>窓陶器 | 高台各型 | 底部1/2周 | 進存高<br>2.5 | -         | 6.9       | 良  | 外黄茶色(黄釉)<br>内淡黄灰色          | ち密、雲母粒       | 底部ヘラ削り後3点貼り付け高台。<br>登室6.7小期、18世紀 |
| 8  | 产地不明<br>陶器   | 碗    | 高台部全面  | 進存高<br>1.8 | 35        | -         | 良  | 外灰色一部青緑灰色(施釉)<br>内淡黄灰色(施釉) | ち密           | ロクロ調整。内面は全周灰釉。肥前<br>系か。江戸時代      |
| 9  | 常滑窯<br>陶器    | 片口鉢  | 口縁部内   | -          | -         | -         | 良  | 内外赤褐色                      | 長石、石英        | ロクロナデ。10型式。15世紀後半。               |
| 10 | 常滑窯<br>陶器    | 皿    | 口縁部1/4 | -          | -         | -         | 良  | 外灰白色～灰黑色<br>内赤褐色～暗茶灰色      | 長石多含<br>石英混入 | 内外面ロクロナデ。10型式。15世紀<br>後半。        |
| 11 | 寛永通寶         |      |        | 外径<br>2.5  | 内径<br>0.6 | 底<br>2.2g |    |                            |              |                                  |

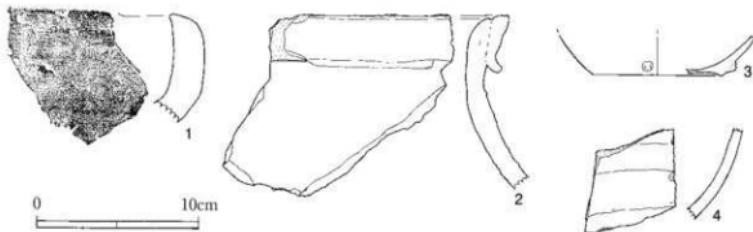
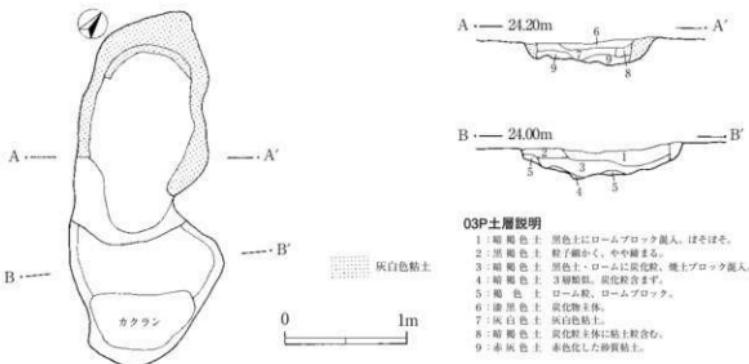


第8図 01P.04P.08P遺構実測図

01P 遺物観察表

|   | 器種       | 器形   | 部位  | 計測値(cm) |    |    | 構成 | 色調              | 胎土    | 調整・文様等            |
|---|----------|------|-----|---------|----|----|----|-----------------|-------|-------------------|
|   |          |      |     | 器高      | 口径 | 底径 |    |                 |       |                   |
| 1 | 瓶口・美濃窓陶器 | 天目茶碗 | 体部内 | -       | -  | -  | 良好 | 内外黒茶色<br>内面洪緑灰色 | 長石、ち密 | ロクロ調整。内外面鉄釉。17世紀。 |

第9図 01P出土遺物



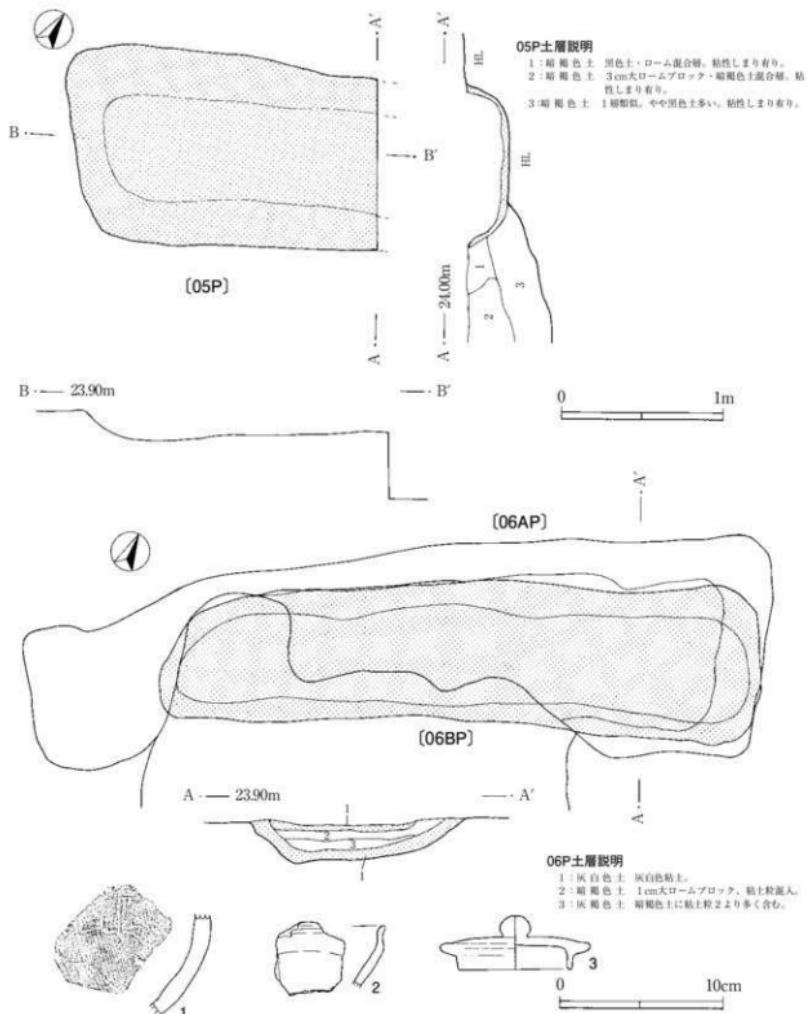
03P 遺物観察表

|   | 器性           | 器形 | 断面           | 計測値 (cm)   |    |     | 焼成 | 色調                 | 地土           | 調整・文様等                         |
|---|--------------|----|--------------|------------|----|-----|----|--------------------|--------------|--------------------------------|
|   |              |    |              | 器高         | 口径 | 底径  |    |                    |              |                                |
| 1 | 土製           | 甌炉 | 口縁部片         | -          | -  | -   | 良  | 内外淡褐色              | 黒芸母、長石<br>ち運 | 無い直状口縁。                        |
| 2 | 常滑窯<br>陶器    | 甌  | 口縁部          | -          | -  | -   | 良  | 内外赤褐色              | 長石、石英        | 9型式、15世紀前半。                    |
| 3 | 花崗岩<br>陶器    | 香炉 | 底部～体部<br>1/3 | 遺存高<br>2.4 | -  | 8.0 | 良  | 外淡灰褐色<br>内底白色(黒斑?) | ち運           | 底部外面～体部下端に蓮状凹凸付着。<br>ボタン状突起有り。 |
| 4 | 繩目・美濃<br>窯陶器 | 甌  | 体部片          | -          | -  | -   | 良  | 淡黃灰褐色<br>灰褐色       | ち運           | 外表面下部無釉。17世紀代。                 |

第10図 03P遺構実測図・出土遺物

#### 06B P (第11図 図版1)

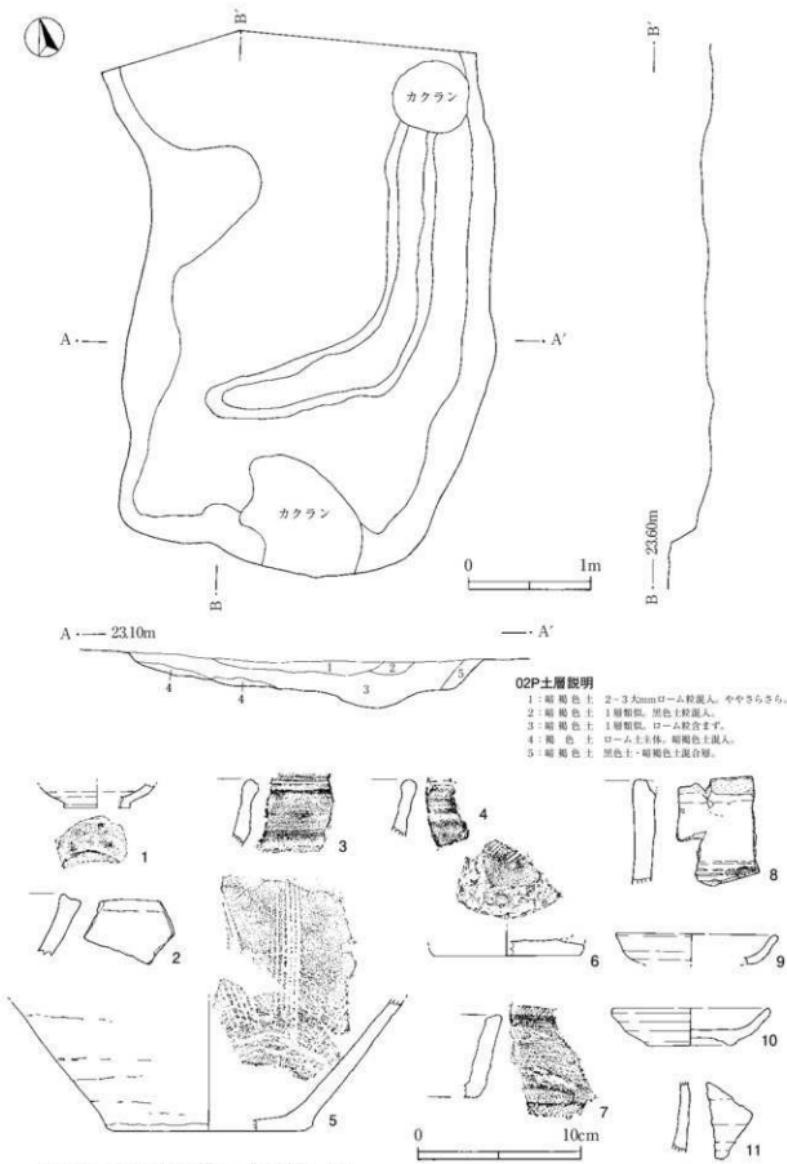
位置：南側調査区中央。確認面：土壘切上面。方位：N-78°-E。規模・平面形：3.69m×0.84m×深さ0.04mの隅丸長方形。底面：平坦である。壁の立ち上がりは緩やか。覆土：1層。暗褐色土。厚さ4～5cmの白色粘土を全面に貼る。遺物：備前産陶器蓋が出土。所見：粘土貼土坑である。土壘と重複関係があり、土壘を切っている。06APを作り変えている。



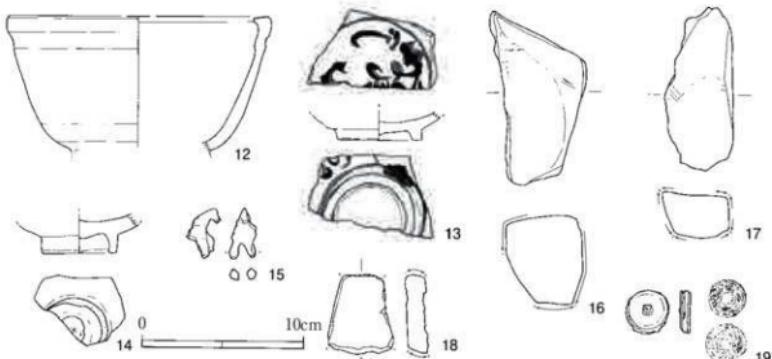
05P・06P 遺物観察表

|   | 器種           | 器形   | 部位            | 計測値 (cm) |            |           | 構成 | 色調                | 助土    | 調整・文様等                                    |
|---|--------------|------|---------------|----------|------------|-----------|----|-------------------|-------|---|
|   |              |      |               | 器高       | 口径         | 底径        |    |                   |       |   |
| 1 | 常滑束<br>陶器    | 内耳瓶  | 腹下部           | -        | -          | -         | 良好 | 内外茶褐色             | 長石・石英 |   |
| 2 | 鹿口・美濃<br>窓陶器 | 天目茶碗 | 口沿部分          | -        | -          | -         | 良  | 内外茶黒色 (鉢輪)        | ち密    | ロクロ調整。内外面鉢輪。17世紀。登録2-3小箱 (Ⅲ期) か。優品。内面一部墨。 |
| 3 | 产地不明<br>陶器   | 壺    | 完存<br>(受付一部欠) | 3.2      | 受付径<br>6.8 | 底径<br>9.2 | 良  | 外茶褐色 (自然輪)<br>内茶色 | ち密    | ロクロ調整。円錐状鉢。江戸時代                           |

第11図 05P・06P遺構実測図・出土遺物



第12図 02P遺構実測図・出土遺物（1）



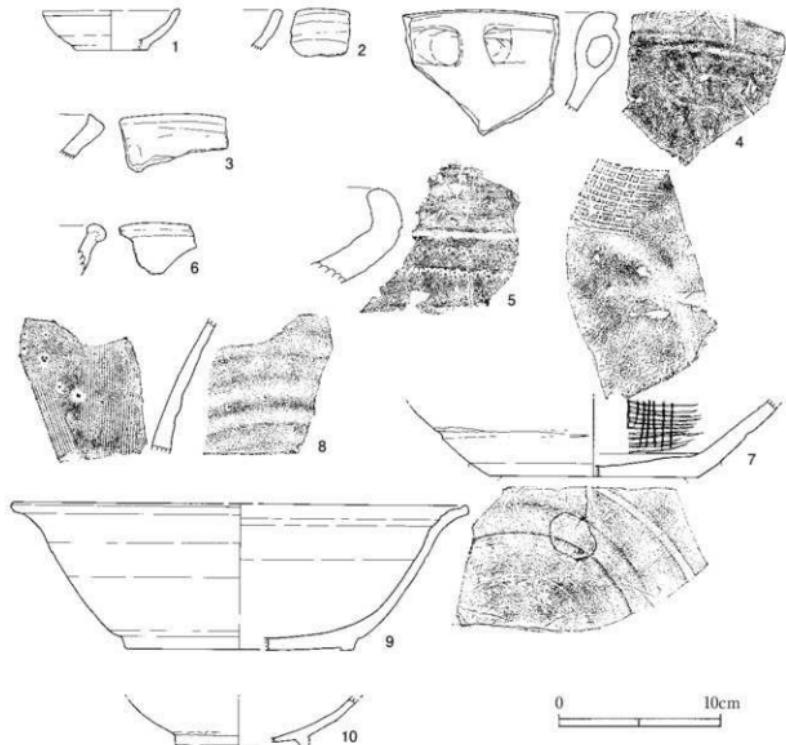
O2P出土遺物表

| 器種                                | 部種           | 部位              | 計測値(cm)    |                 |             | 焼成                     | 色調                     | 胎土                              | 調整・文様等                                |  |
|-----------------------------------|--------------|-----------------|------------|-----------------|-------------|------------------------|------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|--|
|                                   |              |                 | 長径         | 短径              | 底径          |                        |                        |                                 |                                       |  |
| 1 土器                              | かわらけ         | 底部1/5~全体        | 13         | -               | 20          | 良                      | 内外褐褐色                  | 長石、雲母多含                         | ロクロ調整、底部切り離し不規則。                      |  |
| 2 土器                              | 内耳土鍋         | 口縁部分            | -          | -               | -           | 良好                     | 外褐褐色                   | 長石、雲母<br>赤色粒、砂粒                 | 口縁部内外ロクロナゼ。                           |  |
| 3 土器                              | 内耳土鍋         | 銅鋤部分            | -          | -               | -           | 良好                     | 外褐褐色                   | 雲母多含、長石                         | ロクロ調整。外縁は煙による黒化。                      |  |
| 4 土器                              | 内耳土鍋         | 口縁部分            | -          | -               | -           | 良好                     | 外褐褐色                   | 雲母、長石、砂粒                        | ロクロ調整。内面に双耳付。                         |  |
| 5 土器                              | 擂鉢           | 底部1/3~銅部        | 遺存高<br>80  | -               | 116         | 良                      | 外底茶~銅部下半黒褐色<br>内茶褐色    | 雲母、長石、砂粒                        | 粘土練造き工上。外面ハナナゼ。16世紀。                  |  |
| 6 土器                              | 擂鉢           | 底部1/4           | 遺存高<br>10  | -               | 90          | 良                      | 底部外側黒褐色<br>内茶褐色        | 雲母、長石、砂粒                        | 内面底面に沈積。                              |  |
| 7 土器                              | 内耳土鍋         | 口縁~底部片          | -          | -               | -           | 良好                     | 内褐褐色~茶褐色               | 長石、雲母、石英                        | 外ロクロナゼ。体部下端ハラ割れ。16世紀<br>内側空。北東系灰陶。    |  |
| 8 土器                              | 火鉢           | 口縁~底部片          | -          | -               | -           | 良好                     | 外褐茶褐色                  | 長石、雲母、砂粒                        | 外ロクロナゼ。内面に沈積。内に円文を施文。<br>外ロクロナゼ。16世紀。 |  |
| 9 舫口・美濃窯脚 丸盤                      | 口縁~体部<br>1/5 | -               | -          | -               | -           | 良好                     | 内茶褐色                   | 雲母                              | ロクロ調整。底輪。16世紀後半。                      |  |
| 10 舫口・美濃窯脚 小皿                     | 体~底部1/4      | 2.3             | 95         | 52              | 良好          | 内淡黄褐色                  | ち密                     | ロクロ調整。内外茶褐色。16世紀後葉(大<br>室若3代前)。 |                                       |  |
| 11 舫口・美濃窯脚 香炉<br>(貴重品)            | 銅鋤部分         | -               | -          | -               | -           | 良好                     | 外浅褐色~茶褐色               | ち密                              | ロクロ調整。外面灰釉。                           |  |
| 12 舫口・美濃窯脚 踏                      | 口縁~体部        | 遺存高<br>8.3      | 160        | -               | 良好          | 内外淡黃褐色(内部)             | 雲母                     | ロクロ調整。黄褐色(内部)。登場6-7小箱。<br>16世紀。 |                                       |  |
| 13 中国灰<br>磁器                      | 青花文<br>染付碗   | 底部1/2           | 遺存高<br>19  | 高台部<br>外縁<br>52 | -           | 良                      | 内外茶褐色<br>で淡茶色の青花文      | ち密                              | 高台付付身目、底部外縁一部黒釉。中国<br>瀬州窯。            |  |
| 14 中国灰<br>磁器                      | 染付碗          | 底部1/4周          | 遺存高<br>23  | 高台部<br>45       | -           | 良好                     | 外淡青色<br>内茶褐色           | ち密                              | 底部内外面灰釉。高台付付身目。染付碗<br>F群。             |  |
| 15 土製品                            | 馬形           | 馬頭部 前足部<br>銅部遺存 | 21         | 12              | -           | 良                      | 淡茶褐色                   | 石英、長石                           | 祭祀品。手ひねり。馬を祀る。                        |  |
| 16 破石                             |              |                 | 全長<br>10.7 | 幅<br>5.5        | 厚5<br>33.8g | 重5<br>33.8g            | 表面灰褐色                  | 破石灰質                            | 擦り面は上段を加え4面。<br>謹の割合が見られる。            |  |
| 17 破石                             |              |                 | 全長<br>10   | 幅<br>4.2        | 厚5<br>28    | 重5<br>125.6g           | 褐色                     | 破石灰質                            | 擦り面は4面。                               |  |
| 18 土器                             | 内耳土鍋         | 底辺              | 4.9        | 40              | 12          | 良                      | 内淡黄褐色                  | 石英、長石                           | 軽用破石。底面4面。表面刷り痕。                      |  |
| 19 1対水道管<br>2なし鉄<br>3木文鉄<br>4対水道管 | 銅鉄           |                 | 2.5        | -               | -           | 重5<br>120g<br>(23破片込み) | 重5<br>120g<br>(23破片込み) | 重5<br>56g<br>重5<br>34g          |                                       |  |

第13図 O2P出土遺物 (2)

## 02P (第8.9図 図版1.3)

位置：北側調査区中央。確認面：ソフトローム上面。方位：N-20°-E。規模・平面形：4.46m以上×3.06m×深さ0.26mの不整長方形。底面：ほぼ平坦だが、中央東側にL字状に溝が配置される。幅0.4m深さ0.1m。西壁の立ち上がりは緩やかだが、東及び南壁は直立する。覆土：5層。暗褐色土系の自然堆積層だが、全体にやや縮まりに欠く。遺物：覆土中より内耳土鍋・擂鉢等調理具、かわらけ・小皿・鉢等食器類、馬形の祭祀具、舶載磁器等豪奢品、火鉢・砥石等生活用品等全般に及ぶ品々が出土。またアカニシの芯部が出土している。所見：土坑の用途は不明であるが、出土遺物の時期が16世紀～17世紀初頭に位置付けられることから、該期の所産と考えられる。



確認調査遺物観察表

| 器種             | 器形            | 部位                      | 計測値(cm)    |             |      | 焼成   | 色調              | 胎土    | 調整・文様等  |
|----------------|---------------|-------------------------|------------|-------------|------|------|-----------------|-------|---|
|                |               |                         | 基高         | 口径          | 底径   |      |                 |       |   |
| 1 上器<br>かわらけ   | 口縁部1/5~<br>底部 |                         | 2.4        | 8.3         | -    | やや不良 | 内外淡灰色           | 長石、砂粒 | ロクロ調査、内ナデ、内青帯。D2-2T<br>白色系カラマケ。16世紀後半。            |
| 2 上器<br>かわらけ   | 口縁部           |                         | -          | -           | -    | 良    | 内外褐色            | 雲母、長石 | 内ロクロナデ、直線形。D2-2T<br>赤色系カラマケ。16世紀後半。               |
| 3 上器<br>内耳上端   | 口縁部           | 進存高<br>1.7              | 8.6        | -           | -    | 良    | 外褐褐色<br>内素褐色    | 雲母、長石 | 内ロクロナデ。D2-2T<br>16世紀。                             |
| 4 上器<br>内耳上端   | 口縁~腹部         | -                       | -          | -           | -    | 良    | 外深黒色(煤)<br>内素褐色 | 雲母、石英 | 内褐色ナデ、焼成後骨孔有、内耳形鉢化<br>沿口下げるため<br>の构造。16世紀後半。D2-2T |
| 5 上質<br>風炉     | 口縁部           | -                       | -          | -           | -    | 良    | 内外赤茶色           | 雲母、石英 | 内褐色ナデ。C4-4T<br>内ロクロナデ。16世紀後半。                     |
| 6 斧戸・美濃<br>実陶器 | 小型鉢           | 口縁部                     | -          | -           | -    | 良    | 内外暗茶色(施釉)       | ち密    | 玉縁状口縁。内外露胎。江戸時代、耕土<br>中                           |
| 7 斧戸・美濃<br>実陶器 | 古廻戸<br>鋸刃付大鉢  | 底部1/4周、<br>鋸刃付下半        | 4.8        | -           | 12.6 | 良    | 淡褐色             | ち密    | 外 風戸一部脚下部削痕ヘラ切り。C4-4T<br>内 褐褐色の跡目。15世紀。           |
| 8 斧戸・美濃<br>実陶器 | 鉢             | 底部下半                    | 進存高<br>1.8 | 高台部径<br>3.5 | -    | 良    | 内外黒灰色(施釉)       | ち密    | 外ロクロ目取型。D2-2T<br>内 22本程度の輪位沈縮。内外露胎。               |
| 9 斧戸・美濃<br>実陶器 | 大平鉢           | 底部1/4~<br>口縁から脚下<br>半まで | 9.0        | 28          | 13.9 | 良    | 内外淡黃褐色(施釉)      | ち密    | 内ロクロナデ。D2-2T<br>登窓6~7小窓。18世紀。                     |
| 10 地盤不明<br>陶器  | 瓶             | 脚部下半                    | 進存高<br>3.1 | 高台部径<br>7.8 | -    | 良    | 内外緑褐色(施釉)       | ち密    | 内外ロクロナデ。A5-3T<br>新しいか。                            |

第14図 確認調査出土遺物

確認調査出土遺物（第14図 図版3）

1.2.3.4.8.9は、02Pを含むトレンチ出土。5.7は土壠の南側部分内側のトレンチ出土。

## 第3章 まとめ

中世以降

遺構について

今回調査区は、米本城域四郭に隣接した位置である。検出された遺構は、土壙1条、溝(01M, 02M, 03M)3条、ピット(01P, 02P, 03P, 04P, 05P, 06AP, 06BP, 08P)8基となる。土壙については、核となるハードロームを掘り残して積み上げたと想定される。その内部の一段低い平地に現在の加茂家邸があり、城域四郭に連なる防衛上の施設とも考えられる。溝については、03Mが規模等詳細不明であるが、土壙に付随した堀と考える。ピットについては、土壙下の04Pを除いては土壙内側に配置される。粘土貼り土坑の05P・06AP・06BPについては、05Pが土壙を切っており廃城以後の生活痕跡で、17世紀代に想定される。02Pは大型土坑でしたが、台地整形区画の一部とも考えられる。16世紀後半～17世紀初頭に位置付けられる。さらに下って03Pは、18～19世紀の炭焼き窯である。

遺物について

15～19世紀代で、生活用品・豪奢品・特殊品等多岐にわたる。

中世米本城跡に関わる遺物は、15世紀では瀬戸・美濃窯古瀬戸御目付大皿、常滑窯亞・甕・片口鉢及び16世紀後半主体の土器・陶磁器である。遺物としては瀬戸・美濃窯絶釉小皿・灰釉丸皿・擂鉢・土器類ではカワラケ・内耳土鍋(浅型/埼玉、真壁焼/茨城)・擂鉢・火鉢(瓦質を含む)・風炉等がある。また、稀少品として中国産磁器の染付碗が出土している。茶の湯用品や中国産磁器碗など高い階層性が見いだされるが、その他日常生活用品の出土が多く、城跡ではなく集落跡の一部としての位置づけが可能である。

加茂文左衛門家伝世品として、中国産磁器染付端反皿5点があったことが「八千代市の歴史 通史編上」P370に道上氏によって報告されている。家老といわれた加茂家に、村上氏の遺品として伝世したもので16世紀後半期の資料である。

近世米本城跡は跡地となるが、加茂家の屋敷地としての生活痕跡がうかがわれる。17世紀の遺物は瀬戸・美濃窯絶釉天目茶碗・短頸壺、18世紀では瀬戸・美濃窯大平鉢・黄釉鉢・黄釉筒形香炉、肥前焼皿(底部内面に五弁花文)、18世紀～19世紀では壺・明石系擂鉢、美濃窯白磁壽文小皿のほか、そば猪口・土瓶・煎茶茶碗等が出土した。またその他に、土製品馬形、砥石、硯が見られる。

今回の成果について

遺物・遺構について述べたが、結果として米本城三郭・四郭の北側部分においては、部分的な土壙・堀等の防衛施設はあるものの、日常生活の場として機能していたことが分かった。それは15世紀半ば～16世紀後半以降現在に至るまで継続している。

加茂家は戦国時代には、米本城主村上氏の家臣として仕え、千葉氏・原氏・後北条氏の間わりの中で戦闘に参加する。豊臣秀吉による全国統一への動きで、天正18年(1590)小田原征伐による後北条氏の滅亡で、後北条方は開城となり、米本城も同様の結末をたどったものであろうか。

続く徳川家康が関東に入部し、ほぼ下総国内は徳川一族・家臣、家康に降伏し傘下に入った武将が拠点となる各城に配置された。加茂家はその際にも在地に屋敷を構え、生活してきたことがわかる。遺物からみても稀少な中国産磁器の所有・茶の湯のたしなみ・硯の保持など、当初は当地域を所管した身分を有した人物と想定されよう。

参考文献

米本城跡 1976 八千代市中世館城址調査団 八千代市教育委員会「八千代市中世館城址調査報告」

|                           |      |   |
|---------------------------|------|---|
|                           | 1979 | 八千代市史編さん委員会「八千代市の歴史」P195~215                |
|                           | 1991 | 八千代市史編さん委員会「八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世」           |
|                           | 2008 | 八千代市史編さん委員会「八千代市の歴史 通史編 上」P313~324 P362~372 |
| 正覚院館跡関連                   | 1991 | 八千代市史編さん委員会「八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世」           |
|                           | 2007 | 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡」           |
|                           | 2008 | 八千代市史編さん委員会「八千代市の歴史 通史編 上」P376~384          |
| 吉橋城跡関連                    | 1983 | 八千代市教育委員会「千葉県八千代市北部遺跡群緊急発掘調査報告書」            |
|                           | 1991 | 八千代市史編さん委員会「八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世」           |
|                           | 2008 | 八千代市教育委員会「千葉県八千代市妙見前遺跡 b 地点発掘調査報告書」         |
|                           | 2008 | 八千代市史編さん委員会「八千代市の歴史 通史編 上」P372~376          |
| 金堀城跡・楠ヶ山館跡・小野田城跡・八木ヶ谷城跡関連 |      |   |
|                           | 1987 | 船橋市史編さん委員会「船橋市の遺跡 〔船橋市史資料(二)〕」              |
|                           | 2000 | 船橋市教育委員会「平成11年度 船橋市内遺跡発掘調査報告書」              |
| 全般                        | 2000 | 財団法人千葉県文化財センター「研究紀要20 中近世城館跡の構造と特質」         |

## 報 告 書 抄 錄

|                                  |   |                    |                   |                    |                           |                     |            |
|----------------------------------|---|--------------------|-------------------|--------------------|---------------------------|---------------------|------------|
| ふりがな                             | しばけんやちよし よなもとじょうあとびーちでん                         |                    |                   |                    |                           |                     |            |
| 書名                               | 千葉県八千代市米本城跡b地点                                  |                    |                   |                    |                           |                     |            |
| 副書名                              | 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書                           |                    |                   |                    |                           |                     |            |
| 編著者名                             | 森 竜哉  |                    |                   |                    |                           |                     |            |
| 編集機関                             | 八千代市教育委員会                                       |                    |                   |                    |                           |                     |            |
| 所在地                              | 〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047 (483) 1151代表 |                    |                   |                    |                           |                     |            |
| 発行年月日                            | 令和3年3月25日                                       |                    |                   |                    |                           |                     |            |
| ふりがな<br>所取遺跡名                    | ふりがな<br>所在地                                     | コード<br>市町村<br>遺跡番号 | 北緯<br>東経          | 調査期間               | 調査面積m <sup>2</sup>        | 調査原因                |            |
| よなもとじょうあと<br>米本城跡<br>bちてん<br>b地点 | よなもとあざうらじゅくみのみ<br>米本字内宿南<br>1732-1の一部           | 12221<br>190       | 35度<br>74分<br>72秒 | 140度<br>11分<br>63秒 | 20191203<br>~<br>20200210 | 上層500m <sup>2</sup> | 共同住宅<br>建設 |

| 所取遺跡名   | 種別   | 主な時代 | 主な遺構           |  | 主な遺物   |  | 特記事項 |
|---------|--|------|----------------|--|--|--|------|
| 米本城跡b地点 | 城館跡  | 中近世  | 土壘1条・溝3条・ピット8基 |  | 中国産磁器染付碗、常滑窯陶器壺・壺瀬戸・美濃窯陶器灰釉丸皿・擂鉢、土器類カワラケ・内耳土鍋・擂鉢・火鉢・風炉 |  |      |
| 要約      | 米本城跡における調査として2例目である。米本城跡本体ではないが、隣接地の状況を把握することが重要であると想定された。結果として、中世から近世についての、米本城家臣加茂家の屋敷地での土地利用の一部を調査し、日常生活の場として機能していたことが解明された。 |      |                |  |  |  |      |

図版1 遺構 [pit・土壘]



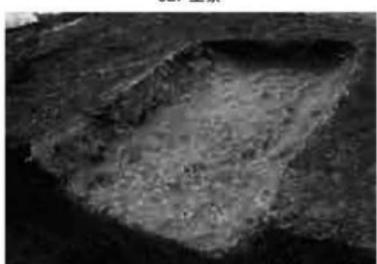
01P全景



02P全景



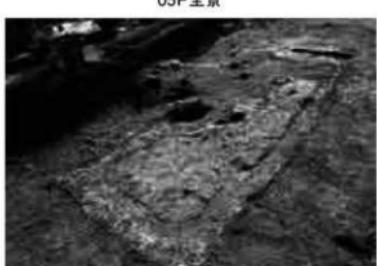
04P全景



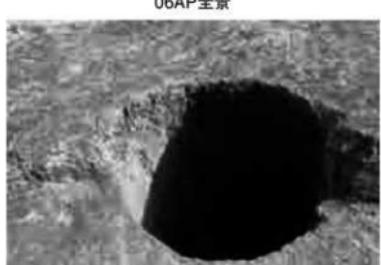
05P全景



06AP全景



06BP全景



08P全景



土壘 1 T セクション

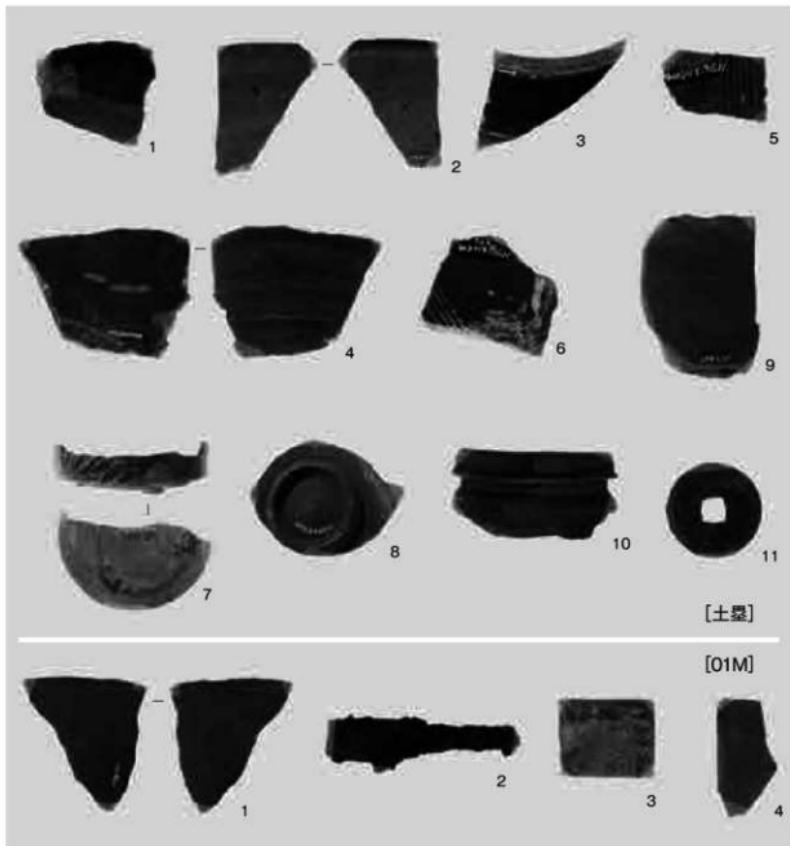
図版2 遺構 [土壙]・遺物 [土壙・01M]



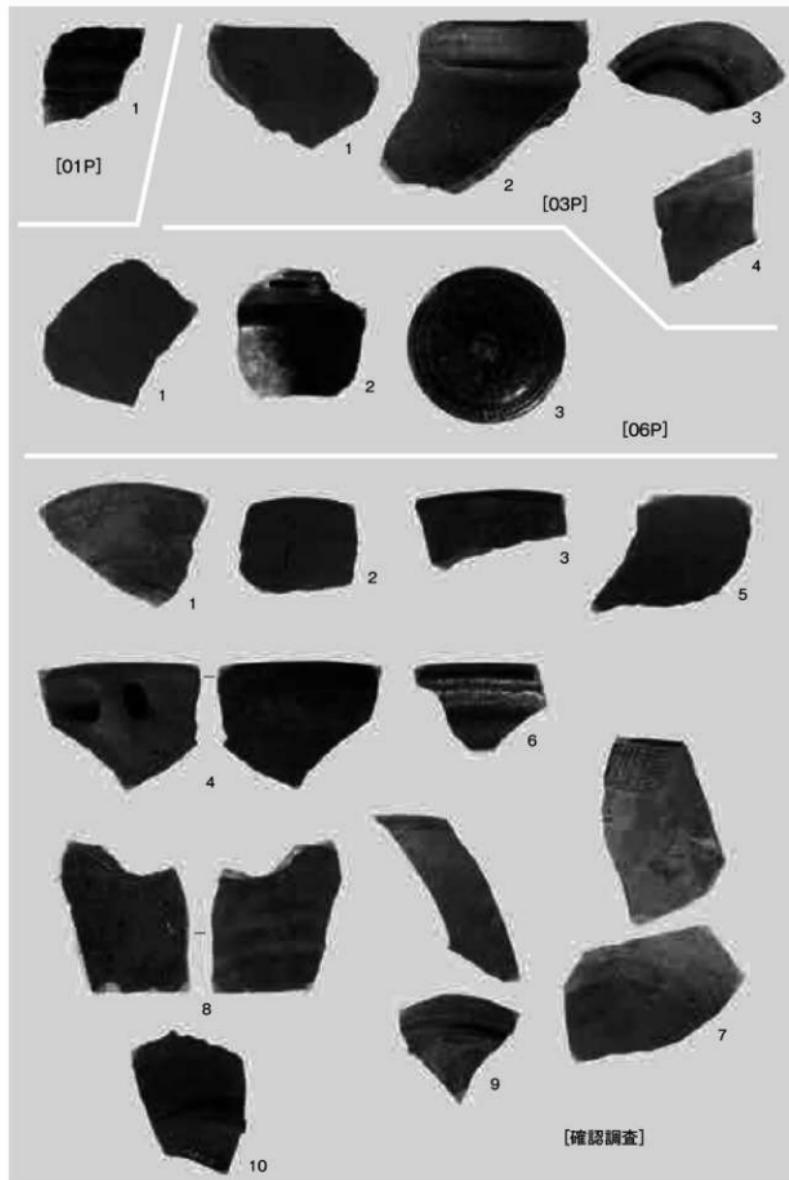
土壙2 Tセクション



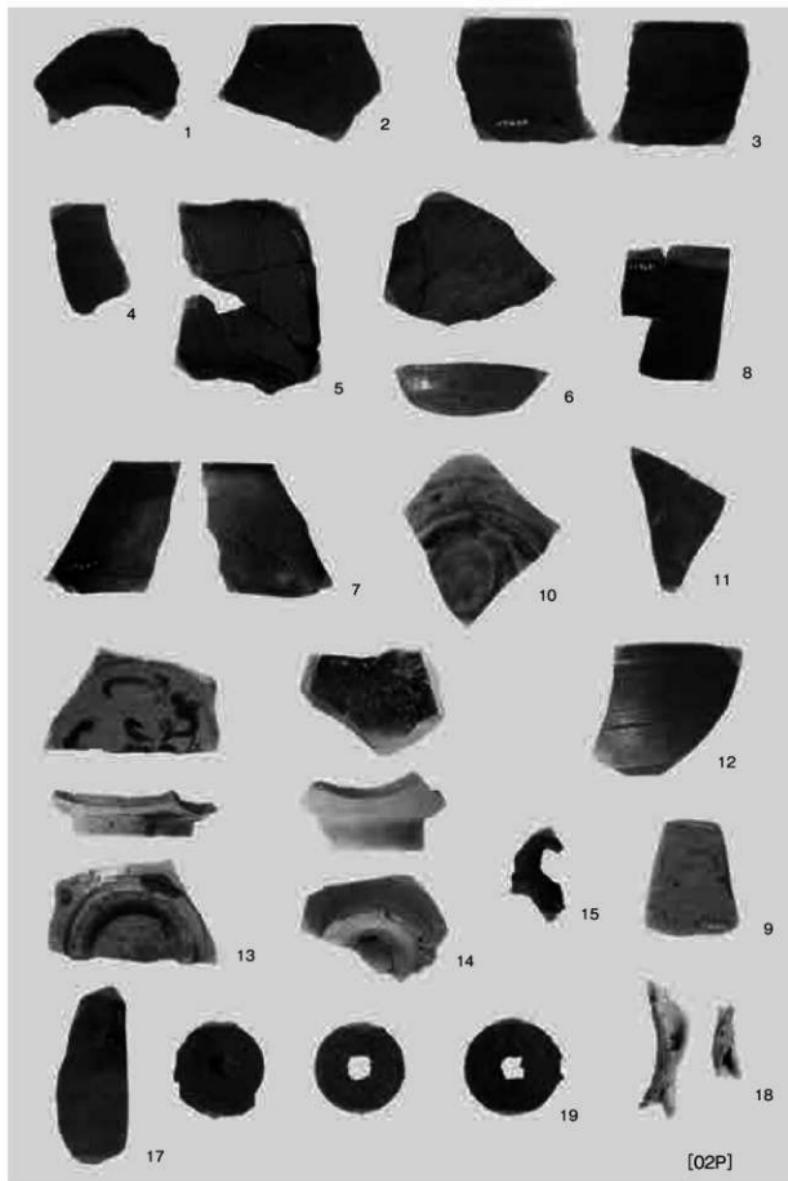
土壙3 Tセクション



図版3 遺物 [01P.03P.06P.確認調査]



図版4 遺物 [02P]



[02P]

千葉県八千代市 米本城跡 b 地点  
－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

---

発 行 日 令和3年3月25日  
編集・発行 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課  
〒276-0045 八千代市大和田138-2  
TEL 047-483-1151（代表）  
発 行 加茂 文雄  
印 刷 金子印刷企画

---